

ブルガリア語¹

菅井 健太

以下、アンケートに沿った形でブルガリア語の訳を提示していく。必要に応じて簡単な説明も加える。

(1a) 《風などで》ドアが開いた。

Вратата се отвори.
door+the ref.acc. open.aor.3.sg.

一般的に、自動詞のほうが *се* を伴って、自動詞であることを明示的に標示する。ただし、それは、例えばロシア語ほど厳格ではなく、一部の動詞は同形態で（つまり *се* を伴わなくとも）他動詞としても自動詞としても用いられることがある²。

се は再帰代名詞対格形由来ではあるが、現代語では再帰以外の場合でも用いられうるので、本稿ではこの *се* 及びその与格形の *си* を伴う動詞を総称して *се* 動詞と呼ぶこととする。したがって、*се* 動詞が必ずしも自動詞と同一ではない。

(1b) (彼が) ドアを開けた。

Той отвори вратата.
he open.aor.3.sg. door+the

(1c) 入口のドアが開けられた。

Вратата беше отворена.
door+the was open

ただしこの訳は、正確に日本語の訳とは一致しない。このブルガリア語の訳では、状態の意味を表している。つまり、訳としては「ドアが開けられていた。」のほうがより近い。

¹ 本アンケートの執筆に際して、ブルガリア語母語話者である Райна Камберова 氏及び Светослав Иванов 氏の協力を得た。記して感謝申し上げます。ただし、本稿におけるいかなる間違いも筆者に帰するものである。

² 例えば、次の対比を見よ。形態的には全く同一でありながら、(ia)は自動詞として、(ib)は他動詞として用いられている例である。ただし、(ia)の *спра* に対して、*спра се* という *се* を伴った形の自動詞も存在する。しかしながら、全ての自動詞でこの競合があるわけではない上に、競合がある場合でも *се* の有無によってニュアンスや用法が異なる場合もある。

(i) a. Трамваят спря. 「路面電車が止まった。」
streetcar+the.nom. stop.aor.3.sg.
b. Спря трамвая. 「路面電車を止めた。」
stop.aor.3.sg. streetcar+the.acc.

ブルガリア語では、受け身の場合、動作的な意味を表すことができない。

(2) 私は（自分の）弟を立てさせた。

Накарах брат си да стане.
make.aor.1.sg. brother own smp. stand-up.pres.3.sg.

ブルガリア語では、被使役主は常に対格で現れる。上の例文では、それは明示的に示されえないが、格を保持する人称代名詞に置き換えると対格の形，ro「彼を」が現れる。

(3) 私は（自分の）弟に歌を歌わせた。

Накарах брат си да изпее песен.
make.aor.1.sg. brother own smp. sing.pres.3.sg. song

(4a) 《遊びたがっている子供に無理やり》母は子供にパンを買いに行かせた。

Майката накара детето да отиде да купи хляб.
mother+the make.aor.3.sg. child+the smp. go.pres.3.sg. smp. buy.pres.3.sg. bread

(4b) 《遊びに出たがっているのを見て》母は子供を遊びに行かせた。

Майката позволи на детето да отиде да си играе.
mother+the allow.aor.3.sg. datmark. child+the smp. go.pres.3.sg. smp. play.pres.3.sg.

強制使役と許可使役では、それぞれ異なった動詞が用いられる。

(5a) 私は弟に服を着せた。

Облякох брат си.
dress.aor.1.sg. brother own

(5b) 私は弟にその服を着させた。

Накарах брат си да се облече.
make.aor.1.sg. brother own smp. ref.acc. dress.pres.3.sg.

ブルガリア語では、文脈に頼らずに(5a)と(5b)の違いを出すことが可能である。前者は、話者が直接手を下したことを意味する。その一方で、後者では話者は行為を強いたのみで、直接手を下してはいない。

(6) 私は弟にその本をあげた。

Дадох книгата на брат си.
give.aor.1.sg. book+the datmark. brother own

(7a) 私は弟に本を読んであげた。

Прочетох книгата на брат си.
read.aor.1.sg. book+the datmark. brother own

(7b) 兄は私に本を読んでくれた。

Брат ми ми прочете книгата.
brother my I.dat. read.aor.3.sg. book+the

授恩恵のための特別な表現はなく、またそれが傾向か逆向かの区別もないので、(7a)と(7b)は全く同じ表現によるものとなる。

(7c) 私は母に髪の毛を切ってもらった。

Майка ме подстрига.
mother I.acc. cut-hair.aor.3.sg.

受恩恵のための特別な表現はないので、単に подстрига「髪を切った」という訳が最も近くなるだろう。

(8a) 私は(自分の)体を洗った。

Измих се.
wash.aor.1.sg. ref.acc.

目的語なしで、се 動詞とするだけであらわすことができる。

(8b) 私は手を洗った。

Измих си ръцете.
wash.aor.1.sg. ref.dat. hands+the

(8c) 彼は(／その人は)手を洗った。

Той си изми ръцете.
he ref.dat. wash.aor.3.sg. hands+the

ce 動詞が直接目的語をとる場合には、元来再帰代名詞の対格形である ce の代わりに、与格の си が用いられる。ただし、ブルガリア語では与格の人称代名詞のクリティック形は所有の意味でも用いられる点に留意すべきである。

(9) 私は（自分のために）その本を買った。

Купих си книгата.
buy.aor.1.sg. ref.dat. book+the

自行自利の意味は、再帰代名詞の与格形である си を用いることであらわされる。

(10) 彼らは（／その人たちは）（互いに）殴り合っていた。

Те се биеха.
they ref.acc. beat.impf.3.pl.

相互は、ce 動詞を用いることであらわすのが一般的である。「互いに」を表す един друг もあるが、この場合には用いられない。

(11) その人たちは《みな一緒に》町へ出発した。

Те тръгнаха заедно към града.
they start.aor.3.pl. together for town+the

(12) その映画は泣ける（その映画を見ると泣いてしまう）。

Този филм те разплаква.
this film you.acc. make-cry.pres.3.sg.
Този филм може да те разплаче.
this film can smp. you.acc. make-cry.pres.3.sg.

(13a) 私は卵を割った。

Счупих яйце.
break.aor.1.sg. egg

(13b) 《うっかり落として》私はコップを割った（／割ってしまった）。

Счупих чаша.
break.aor.1.sg. glass

動作が意志的か否かによることで違いが出ることはない。

(14a) きとう私はコーヒーを飲みすぎて（飲みすぎたので）眠れなかった。

Вчера пих много кафе и не можах да спя.
yesterday drink.aor.1.sg. much coffee and not can.aor.1.sg. smp. sleep

(14b) きとう私は仕事がたくさんあって（たくさんあったので）眠れなかった。

Вчера имах много задачи и не можах да спя.
yesterday have.aor.1.sg. many assignments and not can.aor.1.sg. smp. sleep

随意であるか、不随意であるかによって違いが出ることはない。

(15) 私は頭が痛い。

Боли ме главата.
hurt.pres.3.sg. I.acc. head+the
Имам главоболие.
have.pres.1.sg. headache

二通りの言い方が可能である。一方は、「頭が私を痛めつける」という表現の仕方でもう片方は、単に「頭痛を持っている」という言い方である。

(16) あの女性は髪が長い。

Онази жена има дълга коса.
that woman have.pres.3.sg. long hair

(17a) 彼は（別の）彼の肩を叩いた。

Той го потупа по рамото.
he him.acc. pat.aor.3.sg. on shoulder+the

(17b) 彼は（別の）彼の手をつかんだ。

Той го е хванал за ръката.
he him.acc. be.pres.3.sg. taken by hand+the

(17a)と(17b)は共に、全体を人称代名詞によって表した上で、動作の対象であるその一部分を前置詞句を用いて表す。

(18a) 私は彼がやって来るのを見た。

Видях го да идва.
see.aor.1.sg. him.acc. smp. come.pres.3.sg.
Видях той да идва.
see.aor.1.sg. he.nom. smp. come.pres.3.sg.

知覚動詞を用いた場合には、*да* 構文³を用いて表現ができる。その際、*да* 構文の動詞の意味上の主語は、一般的には *видях* 「見た」の直接目的語として対格の形をとる。ただし、対格の代わりに主格を用いることもできる。

(18b) 私は彼が今日来ることを知っている。

Зная, че той ще дойде днес.
know.pres.1.sg. that he will come.pres.3.sg. today

(19) 彼は自分（のほう）が勝つと思った。

Той мислеше, че ще спечели.
he think.impf.3.sg. that will win.pres.3.sg.

ブルガリア語では、人称代名詞主格の使用は絶対ではない。引用文中の再帰は、人称代名詞の主格 *той* 「彼は」を用いて表すことができるものの、用いないのが普通である。むしろ用いると、コンテキストによっては主節の主語の *той* 「彼」とは別の人物を指す可能性も出てきてしまう。

(20a) 私は（コップの）水（の一部）を飲んだ。

Пих малко вода.
drink.aor.1.sg. a-little water

部分的に及ぶ動作は、*малко* 「少し」のような語を用いて表すことができよう。*малко* がないと、単にその動作が行われたということを述べるにとどまり、どの程度飲んだかについては関心がないことになる。この意味は、不完了体動詞である *пия* のアオリストであることによる。これは、*пия* の代わりに完了体動詞 *изпия* を用いた(20b)の例と対比されうる事実である。

³ *да*+動詞の現在形のことを便宜的にこのように呼ぶこととする。英語の *to* 不定詞と同じような役割を持つ場合もある一方で、命令や勧誘などの意味にも用いることができ、英語の *to* 不定詞と完全に一致するものではない。

(20b) 私は（コップの）水を全部飲んだ。

Изпих чаша вода.
drink-up.aor.1.sg. glass water

全体に及ぶ動作は、ここでは動詞の完了体を用いることであらわすことができる。ただし、例えば чаша「コップ」という語を用いて動作が行われる範囲を明確に限定する必要がある。

(21) あの人は肉を食べない。

Той не яде месо.
he not eat.pres.3.sg. meat

(22a) 今日は寒い。

Днес е студено.
today is cold

(22b) 私は（何だか）寒い（私には寒く感じる）。

Студено ми е.
cold I.dat. be.pres.3.sg.

感覚述語は、非人称文であらわされる。(22b)の студено のように副詞が用いられる場合には意味上の主語は与格で現れるが、名詞である場合には対格で現れ、動詞が非人称で用いられる場合には両方の場合があり、動詞によって決まっている⁴。

また、このような感覚述語を伴う非人称文では、意味上の主語が固有名詞である場合に、それに性・数・格で一致する人称代名詞のクリティック形での重複が義務的に行われる⁵。

(23) 私は人がとても多いのに驚いた。

Учудих се, че има много хора.
get-surprised.aor.1.sg. ref.acc. that there-is many people

⁴ ここでは、名詞が感情述語の構成要素となっている例。

(i) Яд го е. 「彼は怒っている。」
angerhim.acc. be.pres.3.sg.

⁵ 以下の例(iib)では、与格で現れる意味上の主語にあたる на Иван に対応する人称代名詞による重複がなく、非文法的となる。

(ii) a. На Иван му е студено.
datmark. Ivan him.dat.be.pres.3.sg. cold
「イワンは寒く感じている。」

b. *На Иван е студено.

(24) 雨が降ってきた。

Завалия дъжд.
begin-to-rain.aor.3.sg. rain

現場での直接体験については直説法を用いて言うのに対して、非直接体験的な動作に対しては伝聞法(преизказно наклонение)を用いることで、ブルガリア語では両者を動詞の形態上で明示的に区別する。

(25) その本は良く売れる。

Книгата се продава добре.
book+the ref.acc. sell.pres.3.sg. well

中間構文も се 動詞を用いて表すことができる。

略語

acc.= 対格, aor. = アオリスト, dat.= 与格, datmark.= 与格標識, impf. = インペルフエクト, nom.= 主格, pl. = 複数, pres. = 現在, ref. = 再帰代名詞, sg. = 単数, smp. = 従属節形成のモダリティー的助詞(subordinating modal particle)